

## 第6次竹原市総合計画後期基本計画審議会【第2回】

開催日時 令和5年7月5日（水）13:15～14:45

開催場所 庁舎3階第1・2会議室

出席者 審議会委員13名，総務企画部長，企画政策課長，事務局

### （事務局）

皆様，本日は大変お忙しい中お集まりいただき，ありがとうございます。開会に先立ち何点か連絡事項がございます。1点目，竹原商工会議所女性部会長の北丸委員は本日ご都合により欠席となっております。2点目に，この審議会の議事録は竹原市のホームページで公開させていただきますのでご了承ください。3点目に，旅費が生じる委員の方の封筒に旅費の請求書と返信用封筒を入れておりますので後日提出をお願いいたします。最後に，本会議後に開催いたします，第1回地方創生推進会議にご出席いただきます，楠戸委員と小坂委員は，配席に変更が生じておりますので，配席表に準じて席の移動をお願いします。

それでは，配布資料の確認をさせていただきます。会議の次第，委員名簿，配席図，資料1「第6次竹原市総合計画後期基本計画の構成案について」，資料2「第6次竹原市総合計画「市民意識」の状況」，資料3「第6次竹原市総合計画の効果検証について」，参考資料「第1回竹原市総合計画策定に向けたアンケート調査における結果概要の抜粋」，資料4「第6次竹原市総合計画後期基本計画の構成（案）の体系図」となりますが，資料の不足はございませんでしょうか。では，お手元に配布しております次第に沿って議事を進めます。

本日は市民意識調査などを踏まえ，後期基本計画の構成案についてご意見をいただく会議と考えております。委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。それではここからの議事進行は伊藤会長へお願いいたします。

### （会長）

皆さんこんにちは。本日の会議は先ほどご紹介にありましたように，後期基本計画の構成案，枠組みの話です。少し抽象的でとっつきにくい所もありますが，関連資料もたくさん出ておりますので，それぞれの立場から前回同様に積極的なご意見をお伺いできればと思います。

それでは議題1です。第6次竹原市総合計画後期基本計画の構成案についてということで，事務局からお願いいたします。

### （事務局）

それでは本日の議題となっている資料について事務局からご説明をさせていただきます。私は，竹原市企画政策課の大川と申します。よろしくをお願いいたします。

お手元にある資料のうち，右上に資料1と書いてあるA4縦の1枚ものをご覧ください。

「第6次竹原市総合計画後期基本計画の構成案について」でございます。まずは「1 概要」についてご説明をさせていただきます。

本市では、第6次竹原市総合計画基本構想で掲げた将来都市像である「元気と笑顔が織り成す暮らし誇らし、竹原市」の実現に向けて、4つの将来像とそこから分岐した7つの目標像に資する分野別の施策に基づき、まちづくりを推進しております。これは資料4に体系図をわかりやすく示しております。左上に緑で「基本構想」とありますが、その下に将来像や7つの目標像があり、その右に基本計画として様々な施策の方向性が書いてあります。

前回の第1回会議（資料3）でもご説明したとおり、令和4年度に実施した市民満足度調査の結果で、「竹原市が住みやすいと感じている市民の割合」は74.7%で、「竹原市に愛着を感じている市民の割合」は79.3%となっており、多くの皆様が本市に住みやすさや愛着を感じていただいているという結果が出ておりました。

しかし、資料2を見ると住民の皆様の満足度が低い施策のアンケート結果や、資料3の「前期基本計画の成果指標数に対する達成度」（市の職員による自己点検）が低い施策もあります。このことにつきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業を中止せざるを得なかったことが要因の一つとなっているものもありますが、その他の要因につきましても探っていく必要があると考えております。

後期基本計画の策定にあたっては、前期基本計画の取組の成果や課題を踏まえるとともに、少子高齢化、スマートシティ、ゼロカーボン、SDGsといったようなキーワードを含め、今後の様々な変化に対応する取組を加え、持続可能で魅力あるまちづくりを目指していくための構想案について検討していきます。

次に中段にあります「2 前期基本計画の構成及び後期基本計画の構成案」でございます。資料4をご覧になりながら聞いていただけたらと思います。計画を策定した当時は、何よりも優先して災害からの復旧・復興に取組むとの思いから、竹原市復旧・復興プラン「がんばろう竹原」を基にした、平成30年7月豪雨災害からの早期復旧・復興に向けた取組を一番上に記載しております。その下に7つの分野で施策を分類し、その中での重点施策を青い枠にある「たけはら元気プロジェクト」として位置づけ、将来像の実現に向け取組んでおります。

後期基本計画につきましては、本市における人口の現状を把握するとともに、今後、目指すべき将来の方向性と人口の将来展望を提示することを目的として、「竹原市人口ビジョン」の改定作業を行っていることから、第1回会議（資料2）でもご説明しましたが、「第2期竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を現行の計画期間より1年前倒しして、「第3期竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改定作業を行うことで、現在皆様に審議していただいております。総合計画の後期基本計画と一体的に取組んでいくこととしております。

本日は、この表（資料4）の「基本計画」の施策の方向性（分野）にある項目について、どのような表現がよいのか、位置づけはどうかなど、前期基本計画の取組の成果や市民意識調査の結果などを踏まえ議論していただきたいと考えております。

それでは、続いて資料2をご覧ください。こちらは、第6次竹原市総合計画「市民意識」の状況を、総合計画の施策の方向性ごとに整理したものです。この資料の見方ですが、例えば資料2のうち、左側の「1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれている」の右側に、「1 自然環境・景観の継承と活用」という項目がありますが、この項目に対する市民意識調査の結果について、市民の皆様はこの項目に対する重要度は「低い」と思っているが満足度は「高い」という結果がでていているというふうに見ていきます。

そうすると、我々が気になるのが、網掛けをしている10個の項目です。市民の皆様はこれらの項目に対する重要度が「高い」と思っているが、満足度は「低い」という結果になっております。例えば、「5 移住・定住の促進」は、重要度は高いと思っているが取組はまだ満足していないということで、他に「6-2 公共交通対策の推進」「1 結婚・妊娠・出産の支援体制」など、網掛けしているところがそういった箇所になります。

要因としては、人口減少、2度の豪雨災害、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などによりかなり事業を中止せざるを得なかったことで、効果が発現しにくかったことなどが考えられます。後期基本計画では、これらがしっかり取組んでいかなければいけない項目になると考えております。

続いて資料3をご覧ください。竹原市総合計画の前期基本計画に基づき様々な取組を行った実績を各体系別にとりまとめをして、1年に1回、外部委員の皆さまに効果を検証していただくための資料です。配布している資料は、令和4年度を取組をまとめたもので、今年度は7月26日(水)に効果検証会議を行うこととしております。この資料3につきまして、本日は詳細説明を行いませんので、お時間のある時にご覧いただければと思います。

続きまして資料4(A3判)をご覧ください。この資料は、第6次竹原市総合計画後期基本計画に結び付く体系図になります。資料の左側が「基本構想」となっており、その下の「将来都市像」「将来像」「目標像」で基本構想が構成されています。この基本構想につきましては、平成30年度の3月議会へ議案として提出し、承認を得ており、令和元年度から令和10年度までの10年間の考え方を示したものになります。本日は、先ほどもお話ししたように、資料の中ほどにあります「基本計画」について審議していただきたいと考えております。我々としては冒頭に2点お願いしたいことがございます。

まず、1点目として「基本構想」の一番上にあります「重点テーマ 平成30年7月豪雨災害からの早期復旧・復興」と、「基本計画」のすぐ下にあります「平成30年7月豪雨災害 竹原市復旧・復興プラン」につきましては、発災から3か年の計画で取組を行ってまいりました。国や県と連携しながら進めた結果、令和3年3月をもって緊急事業(砂防4か所、急傾斜4か所)が終了したことから、後期基本計画を策定するにあたっては、この項目を失くすこととし、残った災害対応(例えば道路、港湾、上下水道、防災・減災)につきましては、基本計画にある別の項目内で整理させていただきたいと考えております。

次に2点目として、これまでも「将来の人口見通し」として、将来人口や想定人口などを総合計画の中でも示しておりましたが、一方で、地方創生の制度ができたことで、竹原市人

ロビジョンというのを作成して、同様に数値を示しておりました。ここを後期計画からは、「竹原市人口ビジョン」でまとめた人口指標に一本化し、分かりやすくしたいと考えております。

なお、これまで将来像の実現に向けた重点的な取組を「たけはら元気プロジェクト」として位置付けておりましたが、先ほどもご説明しましたように、後期基本計画では、この部分を「第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置づけ、総合計画と一体的に、人口減少対策などに取組んでまいりたいというふうに考えております。

資料の説明につきましては以上です。現在は、前期基本計画と後期基本計画の施策の方向性の書きぶりは、全て前期基本計画と一緒に文言になっております。ここにつきましては、我々事務局が恣意的にはめ込むのはいかなるものかということで、本日審議をしていたきながら、その結果をもってここを改正していきたいと考えております。委員の皆様におかれましては、本日の議題としております「第6次竹原市総合計画後期基本計画の構成案」につきまして、御審議いただきますよう、よろしくお願いいたします。

#### (会長)

ありがとうございます。主に資料4を見ていただければと思います。前期基本計画から後期基本計画へ向けた大きな変更点として2点ございました。1つは竹原復旧復興プランを発展的に解消し、既存の項目の中に再整理していくことについてどうかというお話です。もう1つは地方創生の一環として人口ビジョンが提示されておりましたが、これを後期基本計画については、言わば地方創生の総合戦略と一体化して、人口ビジョンを後期基本計画の中に取り込む、あるいは連携しながら進めていくというお話でした。

具体的には資料4の一番右の箱で、後期基本計画の具体的な中身、今は施策の方向性・分野という表現なのですが、その項目立て、構成、表現に漏れがないかどうかを具体的にご審議いただけたらと思います。ただし、これ自体が大変抽象的ですので、最初に資料2・3・参考資料の市民アンケートについて、お気づきの点や感想をお伺いさせていただければと思いますがいかがでしょうか。

例えばですね、資料2の市民アンケートは前回は概要のご紹介がありました。それから参考資料としてその内訳があります。市民からみた重要度とこれに対して満足しているかどうかというグラフです。資料2はそれを整理したもので、特に網掛けしているところは、重要度は高いが市民満足度は低い項目になります。これに対して資料3は、総合計画の効果検証ということで、外部評価は今からですが、市の内部評価に相当する段階と断言していいと思います。資料3の2ページ目の基本施策の網掛けの部分は先ほどの市民アンケートの満足度が低いところと重複しているのですが、例えば資料3の網掛け部分は、市役所の人たちは「これだけ頑張っています」というところなのですが、市民の方々の評価は必ずしもそうじゃない。事業をちゃんと実施したということで、市役所の自己評価はこれでいいと思います。ただし、その影響や効果がまだ途上にある、十分に市民に浸透していないという状況もある

のだと思います。その辺りを含めて、資料2・3を相互参照しながら、それぞれの立場から何かお気づきの点やご意見がございましたらお願いいたします。

#### (委員)

自治会の山村です。資料2に書いてある状況を重要視したいと考えています。重要度が高いのに満足度が低いというのは、要するに力が注がれていなかったと言い換えることができると思います。人口減少等といった要因もありますので、一概には努力していないと言えないし、やりようがないといえばそうなのですが。

竹原らしさを感じられるテーマの中に「移住・定住の促進」が謳われています。我々はこれを求めたいのですが、自治会によっては入ってくるものに対してよそ者扱いをするという状況がまだ存在しています。なぜかはわかりませんが、移住された市民のかたから私の方に「私は村八分です」と電話がかかってくる。どうしてかと尋ねると、「私はここへ引越してきたが、相手にしてもらえないし、よそ者扱いをされる。どこも相談に乗ってくれない。」と。私もきちんとした返答はできないので、話を聞くだけ聞くようにしています。50幾つの自治会においてまだまだ古い考え方の自治会も現状としてあるということを知りました。そういった自治会に対して移住・定住促進を掲げたところで、果たして受け入れられるのか、今後検証する必要があると思います。

また、「公共交通対策の推進」についても、重要度は高いですが芸陽バスはどんどん消えていきます。公共交通を利用する人がいないということで、企業としては採算が合わない路線は消えていくという状況がみられています。これをどうすれば良いかですが、利用度を図るか、何らかの形で利便性を図るかということに目を向けていく必要があると思います。先般の交通会議でもあったように、西条交通のバスをチャーターして都市バスとして運行していますが、竹原市内に入ってから活動に限られます。竹原市内に入るまで、あるいは市内を出てからは回送（空運転）の区間となり、お客さんは全然乗っていませんので、もったいないと考えます。芸陽バスも主要路線は無くなってきていますので、福祉バスで利用した交通機関にもう一度目を向けて、車庫を出てから車庫に戻るまで有効活用する必要があると思います。そういった小さなところから取組んでいく必要があると思います。

また、子どもたちに関しては、前から問題視されていますが、いかんせん産婦人科があるわけではないですし、条例から見直していく必要があると思います。そういった機関が来やすいような方策を竹原市独自で考える必要があると思います。企業は営利目的になりますので、採算がとれないと縮小しますが、産婦人科といったジャンルの職業に関しては、もっと医師に対する気配りなり配慮なりがあつていいと思います。

他にも雇用創出といったことも人口減になってきたら重要なのですが達成されていきません。この資料3にのっている網掛け部分というのが今回の後期基本計画の大きなポイントになると思います。

### (事務局)

ご意見ありがとうございます。1点目の移住・定住の促進につきましては、我々も広島市内、もしくは県外の様々な場所に出向いてPRをしたり、プロモーション動画を作成してSNSを通じて流したりということをしてまいりました。ただし、委員のご指摘がありましたように、これは外向けの話であって、確かに中向け、市内の自治会に向けた細かい説明はまだ不十分だったように思います。ご指摘がありましたので、外向けと併せて、中の方にもこういった形で受け入れをしていただけるのか。今年度でいえば「お試し暮らし住宅」というものを整備しようとしています。すでに公募しております、この位置が決まれば、その住宅が存在する自治会は出てくると思います。今ご指摘があったように、事前に説明をしておかないと、いざ始まって見ず知らずの人が出入りすることになりますと、やはり色々な問題が出る可能性もありますので、そういったことも踏まえて細かい説明をしていくように気を付けたいと思います。

2点目の公共交通対策の推進という項目ですが、確かに利用者が減るということで芸陽バスに関して具体的にいうと、直近では竹原から安芸津を通じて西条に行く路線が廃止になっております。この利便性を落とさないために、デマンド交通で細かい道路まで入っていくということをしてはいますが、高齢化が進む中で、まだ色々な声があるのは確かです。そういった中で、実は今年度末から来年度にかけて、本市の公共交通計画を見直すということになっております。こちらは国と県の指針も踏まえて作成することになっておりますが、大きく変わる点として、これまでは、事業者(バス・タクシー、JR,船)を利用する中でどう動くかを考えるということでしたが、今後はこれに加えて、商業利用されているもの、例えばホテルや病院、社会施設やスーパーなどが持っている大型車輛の利用も踏まえて考えるようにいたします。また、利用料金を持続可能なように設定することなどが求められております。公共交通の委員さんもおられますので、そういった方々のご意見をいただきながら、より具体的な計画を策定していきたいと思います。

3点目に産科のお話ありがとうございました。こちらは、非常に悩ましく、難しい問題であります。現在は東広島で産婦人科を運営するお医者様にご支援をいただき、竹原市内の病院を活用して出産までの相談という体制は整えることができました。しかしながら、まだ産科の病院を誘致し、設置していただくところまでには至っておりません。こちらは今後もハードルが高いというふうに考えていますが、こういった形で利便性が向上できるのか、引き続き考えていきたいと思います。

### (会長)

ありがとうございます。他にどなたか、特に資料2・3につきまして、参考資料も含めてお気づきの点をお聞かせください。

(委員)

JRをはじめとする公共交通機関は今、乗客が減少しています。公共交通の推進に向けた取組の内容を拝見していますが、JRの利用を増やすためには交流人口を増やさないとはいけません。そういった中では、やはり呉線では、東広島、竹原、三原の3地区になります。島根県の益田市さんは川崎市と都市間交流を行っており、実際に交流人口が増えたそうです。竹原市でもそういったことをやっていただければ、竹原商工会議所、その地区、あるいは観光、交流人口を増やすことにつながると思います。

(事務局)

ご指摘ありがとうございます。公共交通でとりわけJRの路線についての質問でございます。まずJRの利用状況についてはよく新聞等にも出ておりますが、2千人というのがポイントになってこようかと思えます。呉線の竹原駅につきましては、まだ一日の乗降者数が2千人を上回っていますので、廃止路線の対象にはなっていないということを確認しております。ただ、竹原市内ある5つの駅のうち、竹原駅以外の駅につきましては2千人を切っているという状況にあり、我々も危機感を感じています。この辺りのところの利用につきましては、まさに呉市、東広島市安芸津町、竹原市、三原市で利用促進委員会を設けまして、主に観光セクションにおいて、PR事業や利用促進の誘致事業をすることで、市内外に関わらず県外に向けてPRをしております。さらに、大手旅行会社に出向き、旅行商品の造成を直接お願いするといった活動もしております。

更に、利用につきましては、関係人口、交流人口といった言葉が出てきましたが、企画政策課の方からJRさんにアドバイザーをお願いしており、月に4～5回、直接竹原市に向向いていただいて色々なアドバイスをもらうようにしております。具体的にいうと、今年度はこの一環で、民間レベルではありますが、竹原駅前を含め、面的な整備をすることにしております。皆さんご存じかと思いますが、竹原駅前の的場会さんが利用されている建物を核に、例えば竹原駅のトイレの改修を計画しております。行政や民間が一方的にやるのではなく、高校生も踏まえたワークショップ形式で多くの方に関わっていただく形で計画を進めています。また、駅前の空き店舗を改修し、こちらへ民間事業者さまを誘致すべく今水面下で取組んでおります。こういったことはJRさんのアドバイスや助言、お力を借りることによって実現できておりますので、今まさにご指摘にありましたように、今後もJRさんと連携しながら色々な取組を進めてまいりたいと考えております。

(委員)

広島銀行の蓮池です。よろしくお願いたします。わたくしどもが普段企業さまにお邪魔する際に、どちらにお邪魔しても「電気代が高い」とか、「人が集まらない」ということでお悩みの経営者さまが多いです。最近気になった事例では、事業を拡大するために新しい工場を作られたり、事務所を移転したりということを考えていらっしゃるけれども、なかなか竹原

ではいい場所が見つからないということでした。場合によっては竹原市から出ないといけないかなということも考えておられる経営者さまもいらっしゃいます。資料2の4番、「雇用創出・産業人材育成の推進」「商工業の振興」については市民意識調査では低いとなっておりますが、資料3の方では達成率が100%となっており、意識の差が見て取れます。原因と対策について、もしお考えがあれば教えていただきたいです。

**(事務局)**

ご指摘ありがとうございます。確かに、企業の進出場所の件につきましては、県が整備した工業団地がございます。こちらは9区画ございましたが、やっと埋まるというようなことになりまして、次どこに誘致をしていくのかということで考えております。早期に取り組めるのは、既に空き店舗、空き工場になっているところですが、担当課の方で様々な誘致活動しております。移転などの引き合いはあるのですが、実現できたところ、そうでないところがございます。そういった中で、どうしても働く場所がない、もしくは勤めたい職種がないということで、こちらは満足度が低くなっていると我々も理解しております。今後の新しい団地の整備につきましては、この場で明言することはできませんが、委員のご指摘も踏まえて今後考えていきたいと思っております。

**(委員)**

竹原市の姉妹都市はございますか。

**(事務局)**

今は姉妹都市提携を結んでいるところはございません。

**(委員)**

みなさん忘れかけておられると思いますが、「まっさん」という朝ドラがありました。竹原出身の竹鶴政孝が、余市町でニッカウヰスキーを創設しました。一つの共通点があり、竹原で生まれて向こうで成果を出しています。そういったところを見させていただいたのですが、向こうの方々は竹原市に対して愛着を持っておられ、何か交流できないかということを考えておられました。先ほど小坂委員が言われたように、交流人口を増やすというのは本来に必要なことであり、その一つの施策として、姉妹都市を探ってみるのはいかがでしょうか。

**(事務局)**

今委員がおっしゃられたように、確かに余市町とは歴史的にも深いつながりがあるということで私も認識しております。こういった中で、民間レベルではありますが、今週もそういったことにちなんだイベントが竹原市内で開催されることになっております。プライベ

ートでも余市町から先月末に竹原に泊まりにお越しになられたと聞いております。確かに我々としても、姉妹縁組がただちに行われるかどうかは別として、交流は必要だと考えております。委員のご指摘の通りだと思いますので、今後こういったレベルでのつながりになるかはわかりませんが、例えば観光の組織を軸にしたつながりで、組織的に何かをするのか、もしくはそこから行政的につながるのか。そういったことを探りながら取組んでいきたいと考えております。

#### (会長)

ありがとうございます。確かに関係する2地域だけでなく、うまくイベントを組み合わせれば、全国あるいは海外から人が来るようになると思います。

それでは、今のような議論、あるいは市民意識調査結果等を踏まえまして、もう一度資料4をご覧ください。一番今日重要な議題が、後期基本計画の構成、項目立てです。これが、単純に言えば、現状の前期基本計画のままでいいのかどうか。むしろ今のような議論、市民意識調査の結果を踏まえて、もう少し変更や新しく追加、削除、統合するものもあるかと思えます。それから、名称自体もこれでいいのどうか、広げる可能性があるのか、逆に絞る必要があるのかどうか。そういった点について自由にご意見をいただけたらと思います。抽象的な議論なのですが、直感的に、現状でいいのかどうかというところから入っていただければと思います。では順番に、大武委員から反時計回りで感想や気づきを簡単に聞かせていただければと思います。

#### (委員)

子ども子育て会議からまいりました大武です。4月にうちの子が1年生になり、竹原小学校に入学いたしました。最初は親の方が不安で、学校に慣れることができるのかと思っていたのですが、先生が、急に小学校に入って学校のことを始めるのではなく、こども園でしていたようなことを朝に取組ませてもらったり、工作の時間を設けるなどしてくれたおかげで、つまづくことなく、楽しく通うことができます。ありがとうございます。先日は中国電力の陸上選手が長距離走の指導に来てくださったときに参加させてもらいましたが、その会がとても良くて、こども園の友達とも再会でき、こども自身もマラソン大会に向けて意欲的になり、嬉しく思っております。

いくつか定住の魅力につながるかなというところを、子育て支援、学校教育の観点からお話させていただきます。多くはないですが、子育てのために東広島や三原に出て行かれる方は一定数いらっしゃると思います。理由を聞いてみると将来進学するときに、交通の便があまりよくないので、そのイメージができないということをよく聞きます。通おうと思えば、JRや高速バスもあるので可能だと思います。学校によっては竹原まで送迎してくれるところもあるので、その辺りについて、将来までのイメージができるような子育て世帯向けのパンフレットがあると、竹原に住んでみようかなという魅力につながるのではないかなと思います。

す。将来までのイメージができておらず、西条が住みやすそうだといいことで出ていく方がいるのだと感じています。子育て世帯向けに特化した進学イメージが持てるようなものがあれば、竹原にずっと住んでもらえると感じています。竹原は自然がとても豊かなので、竹原のこども園や学校でしか経験できないような学びがあれば、竹原で子育てしたいという思いにつながると思っています。また、先日給食費が値上がりしました。子育てに係る金銭的な負担が少なくなれば、さらに魅力につながると思っています。

一つ伺いたいのですが、竹西地区の中須公園が無くなり、その地区に住んでいる方は、外で子供を遊ばせられる場所がなく、しまむらの公園やジュンテンドーの裏にある空公園に出てきたりしています。あの地区に子どもを遊ばせられるような公園があるのであれば教えていただきたいです。

#### (事務局)

ご意見ありがとうございます。公園につきましては、6の中の2-2に公園の整備という項目がございます。こちらに絡んでということだと思います。今ご指摘がありました公園につきましては、地権者様の御意向等がありまして、様々な検討をした結果、あのような形になったということがございます。その後の公園の整備につきましては、ずっと継続協議でどういった場所がいいのかというのはあるのですが、これまでにないような雨で浸水してしまうとか、そういったところがございますので、候補地を選ぶにあたってはかなり慎重になっているというのが現状でございます。不便を強いるかもしれないのですが、その間は新しくできた公園をなんとか有効活用していただきたいと思っております。

また、移住・定住にからんで、将来のイメージができるようなパンフレットということで、聞いていてまさにそうだなと思えました。現在は出産前から、18歳くらいまでの各種制度をまとめたものはあるのですが、その中に通学のイメージがあるのかということと確かかないように思いますので、こちらはこういった表現ができるのかというのは参考にさせていただけたらと思っております。様々な給食費等のことは、ご存じのように、異次元の子育て施策ということで国の方でも議論されていますので、そういった議論も踏まえながら対応できればと思います。

#### (会長)

ありがとうございます。具体的な事業提案をいただきました。他にどなたか。

#### (事務局)

給食費の値上げのことは、9月の議会で補正予算を組みまして、値上げ分について補助をすることとしておりますので、実質的な値上げは回避しております。

(委員)

忠海高校の沖本でございます。わたくしどもは教育の場でございますので、「学校教育の充実」というところに当てはまろうかと思えます。重要度は高いが満足度が低いという結果をみると、現状でいうと、2クラス規模の高等学校なのですが、平成29年度以降は充足していないという状況が続いております。ただ、そういう中でも8～9割という状況で推移していましたが、この2～3年は私立の授業を踏まえながら、あるいはコロナの状況も重なり、充足率が非常に低くなっており、苦しい状況にあります。そうした中で、教育内容をしっかりと充実させて、さらには小中学校との連携などをしっかりとやっていくところは、わたくしどもの使命でもあり、がんばっていくところでもあります。それ以外のところでいいますと、資料2で網掛けがしてあるところ、例えば「移住・定住の促進」や「雇用創出についての推進」というところで、色々な形の支援のところが今まで取組む中であると、金銭的なところもあるという部分も踏まえながら考えてみると、例えば竹原市内の中学生が竹原高校や忠海高校であるとか、竹原市内の公立高校に進学することが一つの支援といえますか、そういったところが見てとれるというような施策みたいなものがあれば、非常にありがたいと思います。これは中期的な基本計画ということではあろうかと思えますが、実際にはお尻に火が付いているような状況なので、その辺りのところも踏まえて、公共交通対策の推進と利用促進という意味においても、高校で三原や安芸津からも通っている生徒もいます。そういった生徒の利用促進ということも相互に絡んでくる内容だと思うので、そういったところも踏まえながら、教育での支援も考えていただくとありがたいと思います。基本計画については、項目立てとすれば、相互に絡んでくるところではあるので、追加や変えていくとかではなく、資料2にありますような、重点項目というところで強弱をつけて、さらには取組の中で具体的なものを推し進めていくという形でいいのではないかなと思います。

(委員)

三井金属の越智と申します。よろしくお願ひいたします。会長の質問の回答ですが、私も山村委員と同じ考えであり、資料2の市民意識調査の状況は非常に重要なデータだと思っております。これは前期基本計画の結果だと思っておりますので、まずはこの網掛けの部分を後期では重点的に、強弱をつけてやっていただいたほうがいいんじゃないかと思っております。例えば「生涯学習の推進」や「協働のまちづくりの推進」、また5番目の6項目などは一旦やめるといふ言い方は悪いかもしれませんが、優先順位を落として、網掛けのところを重点的にやっていけば竹原市の人口は5年後10年後になるかもしれませんけれども、対策をして改善していけば10年かけて少しずつ人が増えていくんじゃないかなと思っております。

(委員)

竹原高校の梶白でございます。項目については皆さんが言われているように、ある程度優

先順位をつけて、特に市民意識調査で重要度が高いにも関わらず満足度が低いというところを持ってくればいいのかというふうに思います。また、市の達成率とほぼ乖離しているような状況で、その部分については広報誌等を通じて、実際にどのように取り組んでいるかを周知していく必要があると思います。先ほど忠海高校もありましたが、本校も定員に達していないという状況です。若干通えないところから本校に通学している生徒は増えてきている部分はあるのですが、公共交通機関を整備するということは、逆に学校がかなり魅力化を進めて行かないと、出ていくばかりになってしまうという恐れもあります。本校にしても、生徒や保護者の満足度、あるいは進路の決定率は100%だと思います。大学、専門学校、短大、就職など、希望しているところに全員が入れている状況もありますので、そういったことも周知していきながら、竹原に住んでいて、地元にはこういう学校がありますよ、場合によってはもっと大きな学校でこういったことをやってみたいということであれば、通うことは十分可能ですよ、といったように幅広い選択肢が提案できるようなまちづくりをしていけば定住増につながっていくと思います。

#### (委員)

市民意識調査の1～7番のうち、満足度の比較的高いものや低いものを分析してみました。1～4番は半数以上が低い結果が出ており、5～7番は比較的高い結果が出ているように見えるのですが、先ほどの会長のご質問にあった、基本計画の方向性として、引き継いでいくというところは概ね意見はありません。ただ、これで見ると、2番の重要度は高く満足度は低い分野について、子育て前の支援でまとめられている期間の部分、結婚、妊娠、出産という言葉がでていますが、もしかしたら、もう少し幅を広げてこのところを見るということも、ひとつ検討されてみてはいかがでしょうかと思います。

また、雇用・労働の分野も同じく、市民の意識は高く結果は低いという分野ですが、このふくらし方についてもみなさんで検討していただければと思います。満足度が高い分野について、今後特に打ち切る必要はないと思っており、継続していくという意味で変更なしでいいのではないかなと思っております。

#### (委員)

ハローワーク竹原の楠戸です。よろしく申し上げます。雇用は確かに重要です。ちょっと思っているのが、この地域には職種が少ないという声がよくあがることがあります。都市の規模からいうと、広げるというのはなかなか難しいと思います。一方で、わたくしどものほうには雇用圏、提供事業所というのがあり、業種別に分けてみると結構広くあって、タイミングの問題もあるのですが、思ったよりも職種は広いかなと思っております。都会のように、思ったときにすぐ仕事があるというわけではないですが、タイミングが合えば、充分この地域でも思ったような仕事に就けると思うので、その辺をどういうふうに伝えていけばいいのか。求職活動も都会と違って、長期的にみていく必要があるのかもしれない。行ってす

があるということはまずないです。

それと話がちょっと飛んでしまうのですが、雇用の中でも障がい者の支援をさせていただいているのですが、アンケートでは障がい者福祉の推進は重要度も満足度も高くなっております。一方で就労の分野でいくと、実は公共交通の整備とリンクしております。国が定めております障がい者の雇用率に不足している企業に行ったりするのですが、結構なウエイトで交通機関が無く、通えないことが要因となっています。おそらく広島のように路面電車やバスがあるところだと十分働ける方が、この地域では、生活支援の中でスキルの問題ないが、移動手段が無いということで就労福祉の方へ行かれるかたもいらっしゃるのかなと思いますので、公共交通の整備は期待しております。

少し気になったのですが、JR とバスは時刻が連携していますでしょうか。何となく少しずれているのかなと思います。JR で来た方がバスを利用しようとする時間が合っていないように感じます。また、先ほど大川様のお話にありましたように、広報を活用して広く広めていくと言っておられたので、それも含めて提案いたします。以上です。

#### (委員)

基本計画は重点項目を絞って計画を作成していただければと思います。その中で、スマートシティやゼロ%ゴミシティの取組がありますが、その中で今年は G7 の効果もあって若干広島市内においても、インバウンドが戻ってきたというような感じを受けます。そうした中で竹原市も今年 DMO を設置され、市内観光においても増えてくると思います。その中で先ほどの SDGs の工夫やスマートシティの取組に続いて、観光 DX の取組、労働サービスなど、竹原というまちは観光に特化すべきだと思います。そういった意味では DX を推進されれば、新たな若い方もすすんで移住されるということになると思います。

#### (委員)

竹原市農業委員会の祐本です。今日初めて参加させていただいております。みなさんのご意見を聞かせていただく中で、農業の分野についてお話をさせていただきます。今は非常に高齢化が進み、農業から離れる方は多くなってきている中で、今後どうあるべきか色々悩み、考えているところです。今後の農業がどうあるべきか、また皆さんと協議しながらやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### (委員)

資料2を見ておりますが、雇用創出が一番重要だと思います。雇用があればそれに伴い、移住・定住、それから結婚・子育て、これらはみなつながっていると思います。やはり移住・定住の促進ですが、今子どもたちは高校を出るとほぼ竹原から出て行かれるんじゃないかと思います。竹原に住んで大学へ通えないことはないですが、ほとんどの子は進学や就職で出て行くと思います。一旦出た子たちが大学を卒業して竹原に帰ってくるのはどれくらい

いるかわかりませんが、ほとんど出た先で就職されたりで、帰ってくるのは定年退職されてから、老後に第二の人生としてある程度高齢の方が竹原に帰ってくるのかなと思います。やはり若い人が竹原で結婚して子育てをする形を作るためには、竹原で働く場所があることが一番大事だと思います。

それと今日の会議に向けて以前の竹原の総合計画を見ていくつか気づいたことをとりとめなく言わせていただきます。今祐本委員が言われたように農業が非常に衰退してきて、私がいる北部の農地はほとんどソーラーパネルが次々とできています。もう田舎の原風景はソーラーパネルなのかなというくらいあちこちにそういった設備があります。それは市が防ぐことはできないとは思いますが、そういった景観のこともあります。

また、観光の面で、大久野島にはたくさんの方が来られますが、その方々が町並みの方に流れて来られるかと言うと、なかなか交通の便が難しいのかなと思います。なので、大久野島から町並みへ、人の流れをもう少し強いものにしてはどうかという気はいたします。

私は北部に住んでいますが、かんぼセンターが災害の後いまだに何もされていない状況です。湯坂温泉は竹原の観光からいくと、大久野島、町並みに次ぐ観光地だと思いますが、実際にあそこへ行っても賀茂川荘があるだけで、何も見る所もないです。賀茂川荘の前の川は草がぼうぼうですし、初めて来られるかたにあまり湯坂温泉を自慢できません。やはり湯坂温泉として看板を出すのであればもう少し、かんぼセンターも含めて整備していただきたいと思っております。

子育てについてですが、竹原高校のところに子育て住宅があります。あれは今の程度利用されているのか教えていただきたいと思っております。

#### (事務局)

ご意見をいただきありがとうございます。子育て住宅につきましてはいつとき満室で全て埋まっております。どうしても3～4月になると引っ越しで空くのですが、比較的に利用されていて、まだ入りたいといったような問い合わせもあるので、高い水準で利用されていると聞いております。

#### (委員)

いつとき、入る人がいないという状況でしたので、その後はどうかなと思ひ質問いたしました。

あと観光のところでもう一つ、竹原の入り口として2号線の新庄の交差点から竹原に入りますが、あそこは竹原の玄関口なので、もう少し何とか竹原をアピールできるような形で整備ができたかなと思います。あその土地は市の土地ではないので、なかなかあそこをどうこうするのは難しいかもしれませんが、あの竹原の入り口も草が生えているだけです。竹原に入ってくる道も歩道は草だらけで、竹原はきれいな町だねという感じはあまりしません。私は毎日通るので、いつも思うのですが、やはり竹原に来られる方に「竹原はきれい

な町」という印象を持っていただけるような整備をもう少ししたらどうかなと思います。

(委員)

竹原中学校の九十九です。義務教育に関わっているものとして、狭い範囲で話をさせていただきます。学校教育の充実のところでお話があるように、重要度に反して非常に満足度が低いというところで、まずは小中学校のところでいうと、義務教育というと当然行かなければいけない。保護者としても通わせなければいけない。その中で、竹原の中の公立中学校をまずは選択肢に入れてもらうことが、我々義務教育に関わるものの使命だと思っています。竹原にある公立中学校に行かせるくらいなら他市町に、あるいは私学へということにならないように。当然色々な選択肢があるのはいいのですが、当然のことながらまずはその選択肢の中から竹原の中学校を保護者の方に選択していただく。そこからまず、教育内容の充実を図っていかないと、いわゆる学習の状況や生徒指導も含めて、居心地のいい学びの場所を作っていくのが我々の使命だと思って日々学校教育を進めています。

その中で、定住促進や様々なこととリンクしますが、実態としては、私を含め、定年を間近に控えたものの一部が竹原市内に住んでいる。あるいは竹原近隣の地域に住んでいる教職員がやや多くて、若い世代はほとんどが他市町から竹原の学校に通っているというのが実態です。そうなったときに、もちろん竹原の学校に勤務をしているものについては、一生懸命職務に励みますが、そうはいつでも中長期的に竹原の子どもたちのためにといえますか、「ここで地に足を付けて働いていこう、竹原で子どもを育てていこう」ということになかなかつながって行かない。いずれは自分の住んでいる地域の小中学校に異動したいと当然思うわけです。そうなったときに、やはり我々の目の前にいる子どもたちを少しでも、狭い範囲でいえば、いわゆる教職の道に就かせて、竹原の子どもたち、竹原の小中学校の下支えをさせるような人材を育成していくということも実は大切なことではないかなというふうに最近思っています。

我々大人が思うよりも、竹原の子どもたちは竹原のことが好きです。当然のことながら様々な学習の中で竹原の地域学習を進めているということもあるかもしれませんが、それ以上に私の肌感覚からすると、意外に、色々なことが言われますが、自分たちが生まれ育った竹原のことをもっと知りたい、もっと勉強したい、もっと関わりたいという子どもたちがいるという可能性を残していることを考えると、全ての子どもたちに竹原市に残ってほしいというのは当然無理なのですが、いずれかの時期に竹原に帰ってくる、あるいは竹原に居を残したまま他地域で働くということがあってもいいですが、何らか竹原と関わりを持ちたいという子がたくさんいるという実態を踏まえて、少し明るい展望を持ちながら我々としては目の前の子どもたちが高等学校に行くことを勧めています。そういう意味では、話は戻りますが、公立小中学校の充実をしっかりと進めていくためにも、様々なことに関わっていますが、子どもたちも含めて、その辺りの意識の向上というものを進めていきたいと考えています。

(委員)

基本計画の方向については、前期基本計画を引き続きやっていくということで、異存はございません。先ほど竹下委員が言われたように、人口減少、高齢化に重点を置いていただければと思います。

(委員)

後期基本計画ということで、そのまま前期をスライドさせるのはどうかなと思います。具体的に触れてまいりますと、まず一番は将来像、個性です。資料には「コンパクトな市街地とネットワークの形成」と書かれていますが、これは逆に言い換えれば「スマートシティ」と言葉を換えてもいいんじゃないかなと思います。

それから「少子高齢化対策への取組」ということですが、高齢者はどうしても多いのですが、大きな歴史の流れで我々も高齢者になろうとしているのですが、高齢者というのはあと十数年もたつてしまえば少なくなります。今後ということを見ると、少子ではなく、子どもを増やすという意味で、子どもが増えれば高齢者の割合が下がるわけですから、むしろそういうところで、少子高齢化対策の取組というのをちょっと曖昧かもしれませんが、子育てのところに持ってきてもいいのではないかなと。要するに子どもが増えれば高齢化率が下がるという考え方です。

ゼロカーボンシティ、SDGsの目標というのは、もっと下の方で、逆に言えば基幹産業ですね。生活の基盤整備。要するに「道路網・港湾」「住環境」といったところにこれが入ってくるかと思います。そういった中で、「生活学習」「協働のまちづくり」に関して魅力がないようなところをそのまま残すのかということもあるのですが、そういったところはちょっと検討をしていただきたいです。

後期は後期らしく、現状を踏まえたうえで、繰り返しになりますが、重要度が高く満足度が低い所に対して力を入れていくことが重要だと思います。

観光のことで、確かに大久野島から竹原からの流れは少ないです。ただ、これは大久野島、竹原、四国の宮浦港ですね。昔は竹原から波方までフェリーがありました。その途中で宮浦港に寄港していたのですが、この航路が無くなったので、宮浦港はさびれています。宮浦といえば大山祇神社があります。私はそこを含めた、大きなデルタの観光路線。大久野島と竹原は一般の業者さんがやろうとして今止まっているのかはわかりませんが、それプラス三原港を踏まえて海の3つのデルタ、もっと言えば呉市仁方でも良い。何が共通するかと言えば、全て町並みです。古い歴史が共通しています。これをきちっと観光のネットワークとして、交通機関を整備すべく働きかけがあってもいいのではないかなと思っております。

(会長)

予定時間を過ぎてまいりましたが、特になにかご発言しておきたいという方はいらっし

やいますでしょうか。よろしいでしょうか。

今日は特に後半は色々な意見を活発にいただきました。ごく簡単に整理すると、前計画との一貫性、統一性を考慮して大きな変化は必要ないというご意見が大勢を占めたかと思えます。ただし細部については、二つの点からもう少し検討してほしい。一つはライフステージなりライフサイクルに応じて一部の表現を少し詳しくする、あるいは変更してもいいのではないかというご指摘がありました。もう一つは並行して動いております、地方創生総合戦略との絡みで、今はまだ独立した動きですが、相互の関連付けを図りながら、一部の表現を一部調整・工夫してもいいのではないかというご指摘だったと思えます。

大きな変更はないのですけれども、具体的な事業については市民アンケートの結果等を踏まえながら、濃淡強弱をつけて議論してほしいということだったと思えます。

#### (委員)

今日の総合計画とは離れるかもしれませんが、先日この竹原の総合計画の冊子をいただきました。裏表紙に市民憲章があり、昭和43年に制定されたとありましたが、その市民憲章の中に「老人をうやまい、青少年の夢をすこやかにそだてましょう」という一文があります。この老人というのは今時どうなのかなとも思います。市民憲章なので今すぐ変えてというものではないかと思いますが、もう少し変えるようなことがありましたら、変えていただきたいなと思います。

#### (事務局)

ご指摘ありがとうございます。今のご指摘も踏まえて、施策として整理しないといけないこと、もしくは予算レベルで事業として整備しないといけないこと、かなり濃淡がありましたので、諸々整理をして次にお示しできたらと思います。最後のご指摘につきましても、関係課と調整したいと思います。

#### (会長)

以上で議題は終了いたしましたので、事務連絡がございましたらお願いいたします。

#### (事務局)

次回の審議会を開催につきましては、9月頃を予定させていただければと思います。本日はいただきましたご意見等を踏まえまして、施策体系を改めてお示すするとともに、もう少し細かい部分についても可能な範囲でお示しできればと考えております。また会議日程については事前に調整させていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。